



カリオカの風

リオデジャネイロ日本人学校通信
12月号

令和6年12月6日
校長 小堺 広司

学校教育目標

「やさしく

かしこく

たくましく」

～世界の架け橋となる子どもたちの育成を願って～



実り多き1年に感謝、良いお年をお過ごしください！

「ぼくがブラジル人の抱く日本人への固い印象を打ち破るよう努力します。」
リオタイム発表会で、慧人さんは連邦大学生にインタビューしたことをまとめました。「日本人＝固い・厳しい」と受け止められていることに対する解決策を問われ、上記のように答えました。

表面的の事ではなく、「世界の架け橋」として、次代を担う決意が込められ「よくぞ言った!」とほめました。

子どもたちは、様々な教育活動を通して、確実に大きく成長しています。認め、励まし、自立の力を養い、子どもたちの成長をこれから支えてまいります。この1年、保護者の皆様のご理解とご協力に感謝いたします。新年からも日々丁寧な教育活動を続けてまいります。

○ リオタイム発表会 ～深い学び～

12月3日(火)、総合的学習・生活科の成果発表会を行いました。

「ブラジルについて学ぼう」のテーマで、各自が知りたいことをまとめ、仕上げに、先日調理実習(ブリガデーロ・フェイジョン)で体験したことを発表しました。生活科は身の観察から学び、健康科は「飲む水のクオリティ」をテーマに発表しました。



り、あたに成長の足跡を残す。長い人生、つまずきながらも、ついに成功を収める。それは、決して簡単なことではない。しかし、だからこそ、その過程は、とても貴重なものである。そして、その過程の中で、自分自身を知り、成長し、そして、他者とつながる。それが、人生の本当の意味である。そして、その過程の中で、自分自身を知り、成長し、そして、他者とつながる。それが、人生の本当の意味である。

○「聴く」ことは、気持ちがいい！

～ 全校朝会・教員の話より ～

私事ですが、G20の連休を利用して、クリチバ補習授業校を訪問し、14人の子どもたちに出前授業をしました。「命をいただき感謝する」ことについて『もうじきたべられるぼく』の絵本を読み聞かせながらお話ししました（先月の全校朝会校長講話を活用）。子どもたちは、平日はインター校に通い、土曜のみ補習校で国語・算数の勉強をするので、このようなお話を聴く機会はありません。しっかりと聴いてくれる熱いまなざし、私の問いかけに真っすぐな思いで答える姿勢から、子どもたちは、常に見たい・知りたい・聴きたい願いにあふれ、私たち大人は、お話を聴く喜びを身近に用意し、その思いを満たしてあげることが大切であると感じました。

2カ月に一度の全校朝会で、リオ日学の教員が順番に自分の専門分野や興味のあることを題材に、子どもたちに話をします。毎回、先生方の工夫された個性あふれる話に引き込まれます。お話を通して子どもたちは、他者の思いを受け止め、自分の考えをまとめ、その考えを伝え合える力を身に着けます。この話をきっかけに子どもたちの豊かな人生が広がることを願います。

以下、教員の話の抜粋です。

<10/1 白砂先生「なぜ？違いを感じて」>



「語先後礼」という言葉を知っていますか？あいさつをしてからお辞儀をすることで、正しいあいさつのマナーです。これから心がけましょう。

「日本では、太陽はどこから昇って、どこに沈みますか」。東から昇って、南の空を通過して、西に沈むと習います。小3は観察したと聞きますが、リオは「北」の空を通ります。お月様には何が見えますか？日本はウサギですが、南欧はカニ、アラビアはライオンだそうです。月の形はどうでしょう。形は同じなのですが、実は向きが逆なのです。理科（科学）は私たちの暮らしそのものです。ふだんの生活に「なぜ？」がたくさんあふれています。日本とリオの違いに「なぜ？」を感じて、たくさん見つけてください。みなさんの生活がきっと豊かになります。

<12/2 佐藤先生「1年を漢字で表すと」>



12月といえば何を思い浮かべますか？クリスマス・年越しそば・紅白歌合戦・・・『今年の漢字』です。京都・清水寺で毎年12月12日に漢検協会が1年を象徴する漢字を発表し、昨年は「税」でした。教室で今年は何の漢字になるか予想しながら、自分の漢字を2・3年生に考えてもらいました。さくら＝楽（サンホセ日学・さちほさんとの交流が楽しかった）、莞菜＝夢（夢を叶えて幸せになる）、加奈＝花（理科で育てたヒマワリが咲いた）、綾音＝糸（交流からいろいろなつながりがあった）でした。私は「新」です。リオに来て皆に会えたこと、来年も新たにチャレンジしたいことからこの字を選びました。

間もなく1年が終わりますが、今年を振り返り、あなたの漢字は何だろうと考えてみてください。

○フレンドタイム ～ 熱い頭脳戦 ～



11月28日（木）、中学部主催のフレンドタイムを行いました。Pique-bandeiraというブラジルの集団遊びで、前回の玉合戦に似た陣取りゲームです。

2チームに別れて、相手の陣地に置かれたボールを奪って自分の陣地に持ち込めば勝ちとなります。「攻撃は最大の防御」or「守りが要」なのか、お互いの個性が発揮されます。結果は攻撃に出たスキに守りが手薄になった間隙を突いたチームの勝ち。久しぶりに私も熱くなって守りを頑張ったら、膝が痛くなりました・・・

○おいしいみそ汁 ～ おかわり何杯？ ～



11月29日（金）、小学部3年理科・2年生活科で植えたへちまが収穫できました。芽→ふた葉→つる→開花→結実と見守り、学期末でこのままタワシにするか、沖縄の伝統のみそ汁ナーベラ汁にするか、みんなの意見はみそ汁！でした。収穫の儀式、「ピーラーで皮をむく、包丁で輪切りにする、ガスの火加減を調整する、お出汁とワカメを入れる」の実技を体験し、完成したみそ汁と一緒にお弁当を味わいます。

他学年の子どもたち・先生方にもおすそ分けして喜んでもらえました。さてお味は！？「しあわせ！ほんとうにおいしい、何杯でもおかわりできる」。うれしい声が聞こえます。私が自宅から持ってきたアオサもトッピングすると、深みが増し、3杯食べた仲間もいました。収穫に感謝です。

<戦火やむ平和な世の中を願う>

7月にアウシュビッツを訪問した時のガイド・アニアさんは、アウシュビッツの悲劇を間近に見たお父様から惨状を聴き、語り継いでいく決意をしました。「生きる希望と夢を抱き、果たせなかった人の分までしっかり生きる」、アニアさんだからこその熱いメッセージは、ガツンと心に響き、一緒に旅した長女も同じことを感じました。その後、ドイツ・ベルリンを訪れると、ホロコースト記念碑やベルリンの壁に人間の犯した罪の深さを感じ、折しも地下鉄駅前前でパレスチナ問題の抗議デモが開かれていました。

戦火やむ平和な世の中を願う思いは世界共通のはずです。新しい1年が平和な世の中となることを祈ります。